

君津地域水稲情報 「あぜみち第1報」

平成 26 年 6 月 4 日 君津農業事務所 改良普及課

電話 0438-23-0299 F A X 0438-23-6698

ホームページ <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-kimitsu/>

- ★ 早生・中生・晩生の全てで生育は早い
- ★ 茎数過多に要注意！早めの中干しを！

1 君津地域の生育概況

今年、移植時期から続く高温多照傾向のため、生育の進みが早く、茎数がかかなり多くなっています。草丈はやや高く、葉色は平年並からやや薄い傾向で、旺盛な生育です。

移植時期が遅かった地域を除いて、茎数は既に確保されているため、早めに中干しを行って過剰な分けつを抑えましょう。

現在の生育状況は、次のとおりです。

- ① 葉令は平年並み～やや早くなっています。草丈はやや高くなっています。
- ② 茎数は多くなっています。葉色はやや薄い～平年並みです。

2 生育調査ほの調査結果（6月2日）

品種	年	田植え日	葉令	草丈(cm)	茎数(/株)	茎数 (/m ²)	単葉葉色
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	26	4/15	9.5	41.4	44.5	668	45.2
	平年	4/16	9.0	33.2	23.7	314	46.1
	平年比	-1	+0.5	+8.2	+20.8	+354	-0.9
ふさこがね (君津市)	26	4/17	8.3	32.9	29.8	578	40.8
	平年	4/19	8.3	30.0	21.0	402	44.0
	平年比	-2	±0	+2.9	+8.8	+176	-3.2
コシヒカリ (君津市)	26	4/18	9.3	41.0	32.6	619	39.0
	平年	4/20	7.8	36.8	25.2	473	42.2
	平年比	-2	+1.5	+4.2	+7.4	+146	-3.2
コシヒカリ (一発肥料) (富津市)	26	4/18	8.7	40.4	27.4	532	39.8
	平年	4/21	7.6	36.6	21.6	379	42.6
	平年比	-3	+1.1	+3.8	+5.8	+153	-2.8
コシヒカリ (木更津市)	26	4/27	8.2	33.4	20.5	433	39.5
コシヒカリ (一発肥料) (君津市)	26	5/4	7.0	32.5	14.8	237	28.7
	昨年	5/2	7.5	29.2	18.4	280	39.8

※平年値は過去5か年（2009～2013年）平均値。ただし、木更津市のほ場は26年から調査を始めたため、25年及び平年値はなし。また、君津市のコシヒカリ一発肥料のほ場は25年から調査を始めたため、平年値はなし。

3 これからの管理のポイント

① 茎数に応じて中干しに入りましょう

中干しには分げつを抑制し、根の生育を良くする効果があります。茎数が多過ぎると倒伏や玄米品質低下（乳白米の発生等）の原因となりやすく、注意が必要です。

また、米のカドミウム含量が 0.4ppm を超える米は、食品として販売ができません。カドミウム含量を低減させるためには、出穂前後（出穂前 3 週間、出穂後 2 週間）の湛水管理が重要となります。出穂前後に湛水管理を行っても収穫作業に支障がでないように、幼穂形成期に入るまでに中干しを行い、田面を固めておく必要があります。

下表の目標茎数が確保されたら、速やかに中干しを始めましょう。

中干しは田面に小さな亀裂が入り、田面を歩いても長靴が沈まない程度まで行います。中干しが強すぎると田面に大きな亀裂が入ってしまい、根が切れてしまったり、その後の水持ちが悪くなったりします。十分な用水を確保できない地区では、過度な中干しは控えましょう。

中干しを終えたら、かんがい水が田面全体に行き渡る程度の浅水とし、なくなれば水を入れる間断かんがいを行います。

表 品種別の中干し開始時期の目安

品種	植付時期	中干し開始目標茎数(本/㎡)		
		砂質土	壤質土	粘質土
ふさおとめ	4月20日	480 (27本)	480 (27本)	440 (24本)
ふさこがね	4月20日	—	360 (20本)	—
コシヒカリ	4月20日	320 (18本)	310 (17本)	300 (16本)
	5月1日			

※ () 内は 60 株/坪植えの時の 1 株当たり茎数の目安

② 藻の防除は適切に

今年は高温の影響で、多くのほ場で藻が発生しています。藻が大量に発生すると、光が水中に入らないため水温が上がらず、初期生育の遅れにつながります。藻の発生が多い場合は、下記の薬剤を使用しましょう。

モグトン粒剤 使用時期；発生始め～発生盛期（ただし収穫 45 日前まで）
 使用量；2～3kg/10a
 使用回数；3 回以内

③ 今後の高温に注意

気象庁が5月29日に発表した1か月予報によると平年に比べて気温が高く、日照時間は多く、降水量は平年並みか少ない見込みです。この場合、稲の生育はさらに進むことが予想されます。生育診断を行って、早めの中干しと適期適量の穂肥施用を行いましょう。

④ 「ふさおとめ」の幼穂形成期予測

4月20日植えの「ふさおとめ」の生育は平年よりやや早く、6月15日頃から幼穂形成期（幼穂長1mm）に入る見込みです。幼穂形成期から1週間後の6月22日頃から幼穂長が1cmとなり、穂肥の施用適期となりますので、幼穂長を確認しましょう。

※ 次号は「6月18日頃」発行予定